

灯



絶好の錦秋の季節なのに、これを見物する時間も取れず、日本看護協会久常会長の講演会ならびに懇談会出席のため、京都を訪れた。

本校は四十年も看護師の養成をしており、看護協会の動きは常に注目してきた。しかし、残念ながら高校看護教育と看護協会は折り合いがいまひとつ。それは看護協会が看護師の地位向上のためには学歴の向上が重要で、四年制大学で看護師の養成を、と主張しているからだ。

てに京都の秋晩



草野 義輔

ところが、いま医療界では医師不足も深刻だが看護師不足はそれ以上に深刻ともいわれている。大卒の看護師はまだ二割未

満なので、われわれ高校には大量の求人が来ている。聞けば看護協会会員である看護部長クラスも看護師確保に学歴などとても、という。看護師の質の向上は当然だが、必要な量の確保も決しておろそかにはできない。特に地方は大学のない町も多く、大卒看護師のみで、など非現実的な話だと思

う。看護協会が日本の看護の将来を考えていくのであれば幅広い層の賛同を得られるよう、懐の深い活躍をされるようお願いしたい。

文科省によれば高校五年一貫卒の看護師は現場で大変評価が高い、との調査結果が出ている。地域医療のためにも少しでも役に立つ看護師を育てていかねばと、晩秋の京都で考えた。

(昭和学園高校理事長・日田市)